令和４年度　学校自己評価システムシート　（ さいたま市立大宮小学校 ）　　学校番号　０４３　　【様式】

目指す学校像	・児童が生き生きと活動する学校　・地域とともに歩む学校

重点目標	１　児童が自己肯定感を高め、自分から進んで学ぶ授業の充実 ２　安心感のある学校づくりと児童が自分の安全への意識を高める安全指導の継続 ３　コミュニティスクールの仕組みを生かした、地域や保護者の信頼にこたえる学校づくり ４　個々の力を発揮し、向上させる教職員研修の充実

※重点目標は４つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度			
	A	ほぼ達成	（８割以上）
	B	概ね達成	（６割以上）
	C	変化の兆し	（４割以上）
	D	不十分	（４割未満）

学校自己評価								学校運営協議会による評価
年度目標					年度評価			実施日　令和５年２月２２日
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等
1	〈現状〉 ○本校実施の教育に関するアンケートで「学習にやる気をもって取り組んでいる」の質問に肯定的な回答をした割合が８割を超えている・ ○自校テストで漢字・計算の習得率が８割を超えている。 〈課題〉 ○児童が自ら考えて行動したり主体的に学習に取り組んだりするなかで、達成感や充実感を味わえるようにすることが課題である。 ○自分の考えを表現することに苦手意識を感じている児童が一定数おり、互いの考えを認め合うなかで、自己肯定感を高め、自信をもって学習に取り組めるようにすることが課題である。	・児童が思考・判断・表現力を培う学習の充実	①さいたま市アクティブラーニング型授業を実施し、ＩＣＴを活用した「分かりやすい授業」を推進する。 ②タブレットＰＣを授業で積極的に活用し、児童が自分から課題を解決しようとする意欲を高める。	①本校実施の教育に関する児童アンケートの「学校は、分かりやすい授業を行っている」の質問に肯定的な回答をした割合が９割を上回ったか。 ②教職員がタブレットＰＣを積極的に活用した授業を展開し、児童が意欲的にタブレットＰＣを学習に活用できたか。	①本校実施の教育に関するアンケートの「学校は、分かりやすい授業を行っている」の質問に肯定的な回答をした児童の割合は９４％と、９割を上回った。 ②１月に実施したさいたま市学力学習状況調査アンケート「ICT を活用した学び」のうち、該当する項目の肯定的割合が９３．６％と、９割を上回った。	A	①児童の肯定的な回答をした割合は９４％、保護者も同じく９４％、教職員は８７％であった。高い肯定的な回答の割合に満足することなく、これからも「分かりやすい授業」を意識して行っていく。 ②他の学年は該当項目の肯定的な回答の割合が９０％を超えていたが、１年生は平均８５．７％であった。１年生段階から ICT を活用した学びを意識していく。	・我が子の様子を見ていても、１人１台端末を使う機会が増えていると感じる。 ・立場によってばらつきがある一方で、「そう思う」と答える児童の多さに驚いた。 ・とても頑張っているのに、教職員の自己評価が低いのではないか。 ・ＩＣＴを活用するのはもちろんだが、「字を書く」機会も確保してほしい。
		・児童が自己肯定感を高める校内研修の充実	①クラス会議やきらめきメール等の活動を通して、互いに認め合い安心感のある学級づくりを進める。 ②児童の意欲換気のため、「勇気づけ」の意識を教職員がもち、積極的に称賛や励ましの言葉掛けを行う。	○本校実施の教育に関するアンケート「先生から称賛や励ましの言葉掛けが行われている」の質問に肯定的な回答をした割合が９割を上回ったか。	○本校実施の教育に関するアンケート「先生から称賛や励ましの言葉掛けが行われている」の質問に肯定的な回答をした割合が９０％と、９割を達成した。	A	○児童、保護者、教職員の該当項目の平均は９０％であったが、立場によってばらつきが見られた。これからも称賛や励ましの言葉掛けを行っていく。	
2	〈現状〉 ○本校の教育に関するアンケートで「学校に楽しく通っている」の質問に肯定的な回答をした児童、保護者の割合は共に９割を上回った。 ○休み時間のけがが多く、校庭の使用の仕方などが十分に浸透していないことで、医療機関の受診につながることがある。 〈課題〉 ○不安感等による登校しぶり傾向にある児童に対し、組織的に支援していく体制、仕組みづくりが課題である。 ○児童が自分の安全や人々が安全に生活することの大切さを意識できるようにすることが課題である。	・保護者や児童の相談に迅速かつ丁寧に応える校内体制の充実	①保護者や児童からの相談に対し、緊急度 0.5 の対応として、緊急度 1 に発展する前に情報の共有化を図り、迅速かつ丁寧な対応が組織的にできるようにする。 ②ＳＡや少人数指導教員を活用し、オンライン授業や別室での学習など個に応じた指導の充実を図る。	①本校実施の教育に関するアンケート「保護者の相談や要望に適切に対応している」の質問に肯定的な回答をした割合が９割を上回ったか。 ②臨機応変にＳＡや少人数指導を配置し、個に応じた指導の充実につなげることができたか。	①本校実施の教育に関するアンケート「保護者の相談や要望に適切に対応している」の質問に肯定的な回答をした割合が９５％と、９割を上回った。 ②臨機応変にＳＡや少人数指導を配置することで、個に応じた指導の充実につなげることができた。	A	①保護者、教職員の該当項目の平均は９５％であったが、立場によってばらつきが見られた。これからも保護者からの相談や要望に誠意をもって、適切に対応していく。 ②これからも、目の前の児童の理解に努め、「個に応じた指導」を行っていく。	・先日の第２回学校保健委員会やＰＴＡ運営委員会はディスカッション方式や話合いの場を設け、議論が進んだ。このような場を設けることも必要では。 ・児童が「楽しく学校に通っている」ためには、大人の声掛け・児童の見守りが必要である。これからもお願いしたい。 ・肯定的な割合の高さは、大宮小学校のコロナ対策・インフルエンザ対策への評価である。同様に、不登校児童への対策・方策もお願いしたい。
		・児童の事故防止のための安全指導の継続	①毎学期「あおぎりっ子のやくそく」を振り返り、児童が安全に生活するための意識を高める。 ②学期に２回以上、防災や交通安全に関する指導を行い、児童が自分の安全についての意識を高める。	①本校実施の教育に関するアンケート「きまりやルールを守って生活をしている」の質問に肯定的な回答をした割合が９割を上回ったか。 ②本校実施の教育に関するアンケート「交通安全」「防犯・防災」の質問に肯定的な回答をした割合が９割を上回ったか。	①本校実施の教育に関するアンケート「きまりやルールを守って生活をしている」の質問に肯定的な回答をした割合が９６．３％と、９割を上回った。 ②本校実施の教育に関するアンケート「交通安全」「防犯・防災」の質問に肯定的な回答をした割合が９５％と、９割を上回った。	A	①児童、保護者、教職員の該当項目の平均は９６．３％であったが、立場によってばらつきが見られた。これからもきまりやルールを守って生活するよう指導を行っていく。 ②児童、保護者、教職員の該当項目の平均は９５３％であったが、立場によってばらつきが見られた。特に保護者の平均が９０．５％と他の立場よりもやや低い数値であったので、これからも交通安全、防犯・防災の指導を行っていくとともに、保護者にも周知していく必要があると考える。	
3	〈現状〉 ○昨年度、学校運営協議会（準備会）を立ち上げ、児童の様子について情報共有を行い、継続して地域、家庭、学校が連携し、協力し合いながら児童の健全育成を図っていくことを確認した。 ○本校の教育に関するアンケートで「保護者や地域の方々に学校の取組や子どもたちの様子をわかりやすく伝えている」の質問に肯定的な回答の割合が８割を上回った。 〈課題〉 ○今年度は大宮小学校運営協議会を立ち上げ、児童に育てたい力について熟議し、その実現に向けた方策を定め、継続的な行動に向けた一歩を踏み出す。	・児童に育てたい力を共有し、実現に向けた方策を定めるための情報発信	①本校のホームページに、新たに学校運営協議会の情報を発信するページを作成し、広く共有できるようにする。 ②学校行事だけでなく、普段の児童の様子を定期的にホームページにアップし児童の成長に対する関心を高める。	○本校の教育に関するアンケートで「保護者や地域の方々に学校の取組や子どもたちの様子をわかりやすく伝えている」の質問に肯定的な回答の割合が９割を上回ったか。	○本校の教育に関するアンケートで「保護者や地域の方々に学校の取組や子どもたちの様子をわかりやすく伝えている」の質問に肯定的な回答の割合が８３．５％であった。	A	○保護者の該当項目の肯定的な割合は８６％、教職員は８１％であった。新年度から学校 Web ページの形式が切り替わることもあり、学校だよりや学校 Web ページで「わかりやすく」伝えていくことを意識していく。	・本校の教育に関するアンケートでは、どの項目も１０％程度の人は「あれ？」と思っていることがある。「そう思わない」理由や改善点を入力してもよい、自由記述欄があることをもっと周知するとよいのでは。 ・学校Ｗｅｂページにこのような情報が載っていることを知らなかった。もっと周知するとよいのでは。
		・地域に貢献し、地域に関わっていこうとする児童の育成と情報発信	①学校だより等で地域行事への参加を呼びかけ、自分の住む地域の良さを知り、関わっていこうとする態度を育てる。 ②「おはよう活動（駅前清掃活動）」や「募金活動」などを通して、地域に貢献しようとする態度を育てる。	○本校の教育に関するアンケートで「おはよう活動等、他に役立とうとする気持ちを育てるための教育を行っている」の質問に肯定的な回答の割合が児童、保護者共に９割を上回ったか。	○本校の教育に関するアンケートで「おはよう活動等、他に役立とうとする気持ちを育てるための教育を行っている」の質問に肯定的な回答の割合が、児童は８９％、保護者は９３％であった。	A	○該当項目で、教職員で肯定的な回答をした割合は８７％であり、児童・保護者・教職員の平均は８９．７％であった。高い肯定的な回答の割合に満足することなく、これからも「おはよう活動」等、他に役立とうとする気持ちを育てるための教育を行っていく。	
4	〈現状〉 ○ＩＣＴの活用方法について、ＩＣＴ教育推進部を中心に研修を行っている。 ○校内で協働学習の工夫について研修を行っており、話合い活動を積極的に学習に取り入れている。 〈課題〉 ○教職員のＩＣＴ機器の活用スキルに差異があり、誰もが学び続けられる職場環境づくりが求められる。 ○発達段階や児童の実態に応じた指導法などについて、教材研究を深め、児童主体の課題解決学習に取り組んでいくことが課題である。	・児童主体の課題解決学習を通した「学びに向かう人間性を高める協働学習の工夫」についての校内研修の実施	①エバンジェリストを中心に、ＩＣＴを活用した授業に積極的に取り組み、全ての教員がＩＣＴの活用方法について学ぶ研修を実施したり、資料を配付したりする。 ②校内研修を充実させ、教員が授業を公開し合い、取組や手立てを共有し、授業に生かせるようにする。	①全ての教員が、児童主体の課題解決学習を目指し、日常的にＩＣＴを活用する状況になったか。 ②全ての教員が校内研修に積極的に取り組み、様々な取組や手立てを実践することで、児童の成長を実感できた教員の割合が研修に係る教職員アンケートで８割を上回ったか。	①前述のとおり、１月に実施したさいたま市学力学習状況調査アンケート「ICT を活用した学び」のうち、該当する項目の肯定的割合が９３．６％であった。全ての教員が、児童主体の課題解決学習を目指し、日常的にＩＣＴを活用する状況になっていると考える。 ②「学校課題研修は効果的に進められていたか」問うアンケートにおいて、肯定的な回答をした教職員の割合は８１％と、８割を上回った。	A	○全ての教員が日常的にＩＣＴを活用する状況にはなっている。もう一歩進んで、全ての教員が、児童主体の課題解決学習を目指していく。 ○これからも、全ての教員が校内研修に積極的に取り組み、様々な取組や手立てを実践することで、児童の成長を実感できるようにしていく。	・先日の教育長の講演で、各校、エバンジェリストを中心にＩＣＴを広めていると聞いた。大宮小はどうか。 ・教職員は、しなくてはいけないことが多い印象がある。教職員は疲弊していないか。